

Vol. 241 新日鐵・住金が合併スタート 戦略合併で勝ち残りを目指す (平成 24 年 10 月 10 日)

標記のタイトルが新聞、テレビに大きく踊って、宗岡会長は「2002 年は鉄鋼の消費量は九億屯であったが 2020 年は 20 億屯が見込まれるので世界に存在感のある総合力ナンバー 1 を目指す」と言われております。

かつて八幡製鉄と富士製鉄が世紀の大合併と言われ、それまで世界一だった米国 US スチールを抜いて出た狙いは、今井敬名誉会長が私の履歴書の中で「合併によって世界の鉄鋼市場で断トツの 36% を占めるに至った新日鐵は自ら身を削って、業界協調を進めて過当競争を避け、当時あまりにも強すぎる日本の鉄鋼製品に輸入制限を企てる欧米の矛先をかわす目的があった」と書かれております。初代社長の稲山さんは当時ミスターカルテルとニックネームがつけられておりましたが稲山社長に言わせれば「我慢の哲学」であったと…。今回の合併は前回と全く異なる環境の中で総合力を結集して鉄鋼大競争時代に打って出る戦いであります。最強のライバルだったアルセロールも失速したとは言え、生産規模は倍以上あります。EU 大不況、中国不振の中でも鉄鋼の余剰生産は止まず、中国、韓国は国内、東南アジアで更に高炉建設が多数進められており、鉄鋼業界は極めて多難な時代を迎えております。

わがまちの基幹産業である新日鐵住金の健闘を願ってやみません。「新日鐵、住金減損 2400 億円！」9 月末各紙に一斉に大きく報道されました。その夜の飲み仲間 5~6 名の話題になりました。私は「新聞を見た瞬間は赤字の別の表現だと思ったが、一方不良資産の評価換えによって、固定資産税が 30 億円位軽減するのかなあ」と言いました。役所の上級幹部であった友人は「頭のいい人がいるんですね…?」と何故か感心しながら明解な答えは言わない。別の一人は「固定資産税とは関係ないでしょう」「この処理で合併後に黒字化を確実に実現させたいから…と議論百出しましたが、納得した答えに到達致しませんでした。」私の記憶では、今期新日鐵は初期には 850 億円の赤字と予想しており、7 月頃には 1550 億円と赤字幅が大きくなったと訂正されました。

私も減損 2400 億円とは、赤字を別の表現に変えたのかと錯覚したのでした。

減損処理、減損会計とは固定資産が大幅に減少した場合、或いは回収が見込めなくなった場合、例えば 1 千億円の設備投資をした設備が能力、円高、不況等で将来 600 億円しか生産利益が見込まないと判定され、その物件を 700 億円で売却、亦は処分した場合には 300 億円の償却を減損処理ができるので、特別損失として処理できる? 合併前の会社で減損処理をしておけば、新合併会社はその分、身軽になって?」

合併後の 1500 億円黒字目標達成へと進むことがし易いのかと私は考えましたが、新日鐵住金の今後は私達のまち、君津のいわば生命の与奮権を握っているからであります。巨大企業新日鐵も前例の無い大合併を決断して生き残り No1 を目指しております。会議所もまた前例の無いこれからの 10 年、跡を継ぐ人、若者のために選択を間違えないでいただきたい!! <追伸>各地域では秋祭りが始まっています。商店会長、役員の皆様には率先してご参加下さるようお願い申し上げます。